

令和7年度全国特別支援教育センター協議会研究協議会  
(大阪府大会)

「特別支援教育行政関係各所  
(県庁・教育事務所等)  
と連携した教育センターの  
在り方」

宮城県総合教育センター  
特別支援教育班 大枝 香苗

## 宮城県総合教育センター紹介

宮城県総合教育センターは、宮城県の南部に位置する名取市にあります。仙台の空の玄関口の仙台空港がすぐ近くです。



宮城県総合教育センター  
名取市美田園

## 宮城県総合教育センター紹介

福祉と教育の複合施設

名称:まなウェルみやぎ

中央児童  
相談所  
子ども総合  
センター

リハビリテーション  
支援センター

総合教育センター  
美田園高等学校  
(通信制)

美田園駅

仙台空港アクセス線

## 第4分科会

主題 : インクルーシブ教育システム推進に向けた特別支援教育センターの役割

発表主題 : 「特別支援教育行政関係各所(県庁・教育事務所等)と連携した教育センターの在り方」



## 発表のながれ

- 1 宮城県総合教育センターの概要
- 2 本センター特別支援教育班の取組から
  - (1) 研修
  - (2) 研究
  - (3) 支援
- 3 今後に向けて



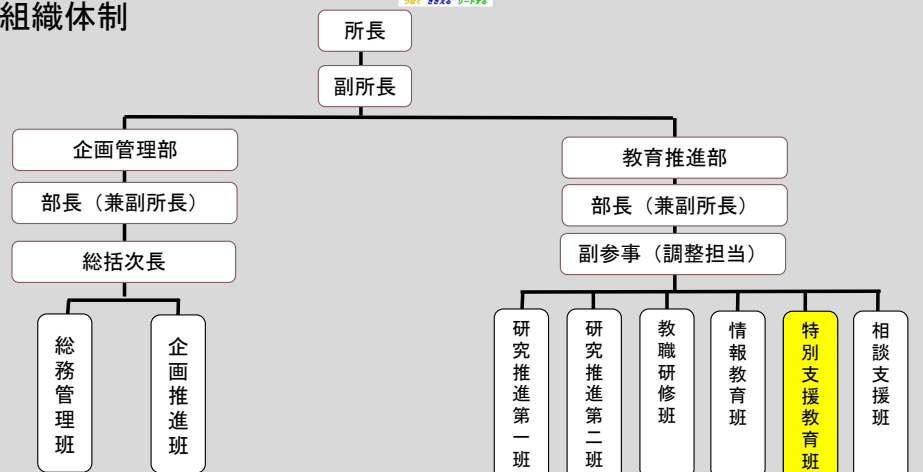
## 1 宮城県総合教育センターの概要

宮城県総合教育センター（以下、本センターとする）は、「みやぎの教育に関する調査・研究・提言等を行うシンクタンク」の役割を果たす機関として設置された。今日的な教育課題の解決及び本県の教育施策の推進等を担うため、研究・研修・支援の各種事業を通して、大学等を含めた教育関係機関との連携・協力（つなぐ）、教育行政・学校・教職員・児童生徒・保護者の支援（ささえる）、本県の教育施策の実現に向けた先進的な研究や提言（リードする）を行うこととしている。



## 1 宮城県総合教育センターの概要

### ○組織体制



## 1 宮城県総合教育センターの概要

### ○運営方針

本県の教育課題について調査・研究を行うとともに、学校が抱える課題の解決に向けた実践的かつ実証的な研究を推進し、その研究成果と有効な方策を積極的に普及する研究体制の充実を図る。

#### 研究

教職経験や職能等に応じて体系化された研修に加え、教科・領域等、特別支援教育、生徒指導・教育相談及び情報教育に関する専門的な研修を中心として、各種研修の内容・実施形態等の工夫改善を図る。

#### 研修

本県の教育課題について調査・研究を行うとともに、学校が抱える課題の解決に向けた実践的かつ実証的な研究を推進し、その研究成果と有効な方策を積極的に普及する研究体制の充実を図る。

#### 支援

学校現場における日々の教育活動や教育課題の解決に取り組む各学校と教職員の主体的教育活動を支援するとともに、児童生徒への教育支援や家庭・地域での教育力の向上につながる支援を行う。



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### ★特別支援教育班の概要について

#### 1 事業の概要

特別支援教育に関する今日的課題の解決に向けた実効性のある研究を行うことで、本県特別支援教育の充実に図るとともに、特別支援教育に関する基礎的及び専門的な知識・技能の習得に必要な研修を組織的・計画的に実施し、教職員の資質と専門性の向上を図る。また、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を目指し、特別支援教育に関する理解啓発を図る。



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### ★特別支援教育班の概要について

#### 2 事業の重点

特別支援教育の今日的な課題である柔軟で連続性のある多様な学びの場の中で、一人一人の児童生徒の様々な教育的ニーズに応じた適切な教育が展開されるため、以下に重点的に取り組む。

##### (1) 研究

共生社会の形成に向け、障害のある子供も障害のない子供も共に学び合うための環境整備を中心とした調査・研究を進め、本県特別支援教育の充実を図る。

##### (2) 研修

①特別支援学級、特別支援学校の教員に向け、基礎編、応用編と研修を組み直し、経験年数に応じた講義、演習、研究協議を通して専門性の向上を図る。

②福祉分野の方々と合同で研修を行い、学校と関係機関等をつなぐ重要な役割を担う特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図る。

③すべての教員に求められる資質である「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」の育成に資する研修を実施し、特別支援教育に関する理解啓発を図る。

##### (3) 支援

各学校や市町村教育委員会等からの要請を受け、学校や教員の特別支援教育への理解啓発に努める。



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### ★特別支援教育班の研修について

No.	種別	番号	研 修 会 名
1	基本 研修	B 1001	特別支援教育研修会Ⅰ〈基礎編〉
2		B 1100	特別支援学校新担任者研修会
3		B 1210	摂食機能の理解と演習
4		B 1300	特別支援教育コーディネーター新担当者研修会
5		<b>B 1301</b>	<b>福祉と教育の連携による特別支援教育コーディネーター研修会</b>
6	専門 研修	D 0101～0106	特別支援教育研修会Ⅱ①〈応用編〉
7		D 0107	特別支援教育研修会Ⅱ②〈応用編〉
8		D 0300	重度・重複障害教育研修会
9		<b>D 0501</b>	<b>インクルーシブ教育研修会①</b>
10		<b>D 0502</b>	<b>インクルーシブ教育研修会②</b>
11		<b>D 0503</b>	<b>インクルーシブ教育研修会③</b>
12		D 0903	通級指導研修会（経験者・言語）
13		D 0904	通級指導研修会（経験者・LD等）
14		D 1100	特別支援教育におけるICT活用研修会



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### (1) 研修

#### 1) 福祉との連携における研修会について

①研修会名：福祉と教育の連携による特別支援教育コーディネーター研修会

②主 催：宮城県総合教育センター、宮城県子ども総合センター

③対 象：【教育機関】

小学校

中学校

義務教育学校

幼稚園、認定こども園

高等学校

特別支援学校

【福祉機関】

基幹相談支援センター

相談支援事業所

放課後等デイサービス

放課後児童クラブ

市町村等において発達障害児やそのご家族の相談又は支援等に従事されている方

特別支援教育コーディネーターは悉皆研修  
特別支援教育コーディネーターは希望研修



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### (1) 研修

#### 1) 福祉との連携における研修会について

#### ④内容

##### ○令和6年度実施内容

	9:20 9:45	10:00	12:00	13:00	16:00 15:30
授業者	星 食・休憩		星 食・休憩		
内容	<b>(講義・演習)</b> <b>「子どもの支援を考える」</b> ① 仮想事例の子どもの特性や特徴を整理する ② 応用行動分析の考え方 特定の行動への支援や工夫の考え方 宮城県子ども総合センター 技術次長（小児科医師）佐藤 寛記 氏 （演習補助）各地域の地域支援コーディネーター 発達障害者地域支援マネジャー		<b>(講義・演習)</b> <b>「子どもの支援を考える」</b> ③ 地域での連携について考える（グループ演習） 宮城県子ども総合センター 技術次長（小児科医師）佐藤 寛記 氏 （演習補助）各地域の地域支援コーディネーター 発達障害者地域支援マネジャー		

##### ○令和6年度事前eラーニング

- ・教育関係機関 「教育と福祉の連携 ～発達障害者支援の取組について～」 (60分×1本)  
「子どもの特性を整理して考える」 (30分×2本)  
「宮城県発達障害者支援体制について」 (15分×1本)
- ・福祉関係機関 「教育と福祉の連携 ～発達障害者支援の取組について～」 (60分×1本)  
「子どもの特性を整理して考える」 (30分×2本)  
「特別支援教育の支援体制について」 (15分×1本)



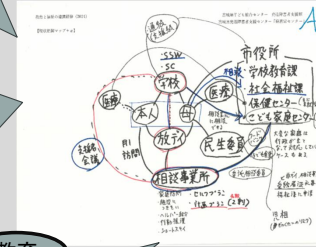
## 2 本センター特別支援教育班の取組から

・福祉に関してもっと理解を深め、多面的な支援体制について学びたいと思います。

・行政や福祉の方と話をすることができ、知らなかった機関や支援の方法を共有でき良かったです。

・放課後デイサービスの方と話す機会がもてたことがよかった。放課後デイサービスの方々の思いを知るとともに、学校現場の様子を知っていただける貴重なよい機会となった。

### 研修会の様子(R6)



・グループワークで一緒に先生方から「困ったときに誰に相談したらよいか分からない」「親のメンタルケアをやってくれるところが欲しい。」といった困りごとが共通してあげられていたのが印象的だった。

・自分が思っているより、行政福祉サービスや民間支援団体の存在が認知されていないことに気付いた。

・顔が見えるだけで終わるのではなく、教育と福祉それぞれがもつ文化を知り、それぞれがもっているよさを活かしながら一緒にできそうなことを考えるきっかけとなるような前向きな場になればいいなと思いました。



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### ○令和7年度実施内容

	9:20 9:45	10:00	11:10 11:00	12:10	13:10	16:00 15:30
授業者	星 食・休憩		星 食・休憩		星 食・休憩	
内容	<b>(実践発表)</b> <b>「福祉と教育が連携した実践事例の紹介」</b> 発達障害者地域支援マネジャーと各地域の教育関係者		<b>(講義)</b> <b>「インシデント・プロセス法」</b> 宮城県子ども総合センター 技術副参事兼技術次長（小児科医師）佐藤 寛記 氏		<b>(講義・演習)</b> <b>「インシデント・プロセス法による事例検討（グループ演習）」</b> 宮城県子ども総合センター 技術副参事兼技術次長（小児科医師）佐藤 寛記 氏 （演習補助）発達障害者地域支援マネジャー 支援学校の特別支援教育コーディネーター	

##### ○令和7年度事後eラーニング

- 全員視聴「学校生活に困難を来す子供の理解と支援」 (90分程度)
- 「児童生徒や保護者が抱える不安や葛藤への支援について」 (30分程度)
- 「アセスメントから考える支援」 (30分程度)
- 学校関係機関のみ視聴「宮城県発達障害者支援体制について」 (30分程度)
- 福祉関係機関のみ視聴「特別支援教育の支援体制について」 (15分程度)

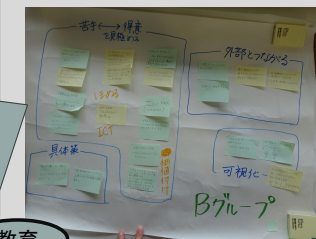


## 2 本センター特別支援教育班の取組から

・今まで小中学校間や支援機関とのやり取りはありましたが、今回、高校の先生が同じグループにいたことで初めて高校の支援についてのお話を考えました。もっと高校の先生方にも参加していただければと思います。

・他職種で話し合うことの有意性を強く感じました。自分では思いつかないアイデアがぼんぼん出てくることは、想像以上に、明るい気持ちで問題に向き合う大切な土壌を作るのだと思いました。また、誰も取り残さない学校教育、地域教育、インクルーシブ教育のためにも、全職員皆、町の皆で子どもたちを見つめて育んでいくための雰囲気作りにも寄与したいと思います。

### 研修会の様子(R7)



・教育と福祉が交わることに大きな壁を感じていた。同じ悩み、愚痴として話し、一つのケースの解決、同じ目線で意見交換ができて楽しかった。教育者と話をする場がなかったので、新鮮で、親近感も持てた。子供が育つ環境を協力して作り上げることができる実感を感じた。

・学校の視点と福祉の視点を混ぜて検討できたことで、この範囲は誰ができそうかと役割分担のイメージをすることができました。



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### (1) 研修

#### 1) 様々な関係機関との連携における研修会について

①研修会名：インクルーシブ教育研修会①②③

②主催：宮城県総合教育センター

③対象：幼稚園、認定こども園、小・中・義務教育学校、  
高等学校、特別支援学校の希望研修

#### ④内 容

##### ○インクルーシブ教育研修会①(医療と教育)

- ・講義演習：「愛着形成に課題のある子どもへの理解と対応」
- ・講義：「発達障害臨床から見た幼児児童生徒の理解と支援の在り方」
- ・オンデマンド配信：「発達障害児の支援の見立てと連携」  
「インクルーシブ教育システムの構築に向けて」  
「合理的配慮について」



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### ○インクルーシブ教育研修会②

(全ての学級で進める特別支援教育)

- ・実践発表：「共に学ぶ教育の実践」
- ・講義演習：「共に学ぶ教育について」
- ・講義：「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり  
ーすべての児童生徒を対象とした対応から段階的対応ー」
- ・演習：「授業づくりについて」
- ・オンデマンド配信：「共生社会の担い手を育むこれからの教育について」  
「高校通級の実際」



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### ○インクルーシブ教育研修会③(早期から就労まで)

- ・講義：「当事者から学ぶ発達障害の理解と支援」
- ・講義演習：「発達障害のある生徒の就労の実現に向けて」
- ・オンデマンド配信：「発達段階に応じた切れ目のない支援と保護者への心理的支援の在り方」  
「共生社会の担い手である子供たちの多様な学びの場について」  
「学びを通じたみやぎの共生社会の推進について」



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### (2) 研究

#### 1) 令和7年度の調査研究について

主題：「共生社会の担い手を育む教育の推進

～宮城のインクルーシブ教育システムの構築状況と

コミュニティースクールの取組に関する調査・研究を通して～」

#### 2) 特別支援教育課との連携

- ①テーマ設定は特別支援教育課からのオーダー
- ②テーマを受けて内容及び計画立案は総合教育センター
- ③年に2回の研究協議会 8月と12月
  - ・協議会参加者は、総合教育センター、教育庁各課室、各教育事務所



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### (3) 支援

#### 1) 宮城県教育庁義務教育課との連携について

○副参事会

- ①回数：年に8回実施
- ②場所：県庁、総合教育センター
- ③メンバー：義務教育課副参事、各教育事務所副参事、総合教育センター副参事
- ④内容：学校訪問含め義務課の事業等説明  
各教育事務所の事業等、総合教育センターの事業等説明  
情報交換
- ⑤いつから：平成31年度より始まった

#### 2) 宮城県教育庁特別支援教育課との連携について

○指導主事学校訪問



## 2 本センター特別支援教育班の取組から

### 今年度の成果から

#### (1) 研修

- ・研修会の実施後に、福祉機関とつながる学校が増えてきた。
- ・中学校区でのグループ演習により、特別支援教育コーディネーター同士が繋がった。
- ・高等学校で困っている事例が紹介され、切れ目ない支援の重要性の確認ができた。

#### (2) 研究

- ・宮城県のインクルーシブ教育システムの構築状況が明らかになった。
- ・特別支援教育課とのさらなる連携が図られた。

#### (3) 支援

- ・学校訪問における特別支援学級の授業提供コマ数が増加した。
- ・指導主事のインクルーシブ教育システムの理解が図られた。



## 3 今後に向けて

### 1 研修

- 福祉と教育の連携による特別支援教育コーディネーター研修会の対象者の検討
- インクルーシブ教育研修会②の内容を大きく変更

### 2 研究

- インクルーシブ教育の推進に向けた調査研究
- 特別支援教育課や関係機関とのさらなる連携

### 3 支援

- 指導主事派遣事業の推進

